

会報

No. 32

平成5年12月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL(075)771-0069



よろしく願います

長岡京市立図書館長

安岡義隆

先日、一席もうけ昔役所で同じ課

の仕事をしていた仲間七人が懐かしい話^{はな}に華をさかせる機会があった。

今は部、課も違うし立場も違うがそのようなことは忘れ、皆若かった三〇年程の前にかえって楽しかった。

その中の一人が突然「趣味は今の内に見つけとかな定年になってからは遅いぞ」という話になった。

囲碁やジョギングと色々な取組が自慢半分に参加者各々が語られたが私はこの手の話が出る肩身が狭い。

学生の頃はスポーツに明け暮れていたの職場でも若かりし頃は野球やサッカー、囲碁等かじってはみたが、今はテレビで楽しんでいるくらいだ。

二〇代の頃から三〇代後半はそれこそ若さにまかせて身体をいじめる無茶な遊び方もしたし、体力を過信して若さの特権だとうぬぼれていた。天罰できめん、四〇代後半健康を損ねてスポーツを楽しむどころでなくなってしまった。

以来、酒、タバコ、コーヒーは止めるはめになり無趣味のうえ嗜好品までとりあげられ益々惨めな気持ち

になった。

しかし、人間ものは考えようで自分に都合よく解釈するものである。

禁煙してみるとタバコを人前で吸うような迷惑なことはないと思うようにもなった。

タバコが身体に悪いことは誰でも知っている。ガンにかかりやすいことは今や定説で血圧を上げ脈拍を早め心臓に負担をかける等害ばかりで益なしだ。

電車や駅、公共の場合はこれからいつそう禁煙の場が増えるに違いない。

二日酔いに苦しめられていたのからも解放され（怪我の巧妙といったところか？）おかげで三度の食事も大変おいしくいただけるようになった。

おまけにウエイトコントロールと病氣予防に朝の散歩が習慣になった。休日には文化、スポーツ情報を得て種々の行事や催し等に参加して結構充実した気分である。

世間一般にも以前に比べてマイカーをやめて自転車やジョギングシューズをはいて徒歩で通勤する人がふえてきたように思う。

なにより歩くことは簡単で費用もあまりかからず、また、事故も起りにくいように健康に良いとなれば一石二鳥で、まさに健康は一生の宝だとは良くいったものだ。

ところで、本誌は図書館関係紙であり、ワープロをこままで打って最初から脱線していたことにはたと気がついた、あとの祭りで紙面が無い。御免。

わが図書館には誠実、勤勉で知識と経験豊かな熱意ある優秀な職員と十分とはいえないまでも多くの貴重な資料に恵まれていることは間違いない。

あとは当然のことだが新米館長が勉強をすることのみで時間を見つけては館長室を出て書架の間を歩こう。今は、来館者に話しかけられてもお役に立つことは少ないが、そのうち共に学びあえる日を夢見て……

そして、疲れたら館長室からぼんやり西山の景色を見ながら無い知恵を絞ろうと考えている。

さしあたって健康問題でも……生涯学習も健康あつてのことだから……

そのうち皆様方の図書館にもお邪魔をして色々とお教えいただきたいと願っています。

あたたかいご教示、ご指導をよろしく願います。

第二回理事会報告

平成五年度第二回理事会が、一月八日府立図書館で開催されました。先ずはじめに各委員会の報告がされ、実務研修会、障害者サービスアソシエイト、新聞雑誌総合目録、広報の発行などそれぞれの分野で活動が進められていることが確認されました。

又、第二回京都図書館大会の実施要項についての報告がされました。

続いて公立図書館振興に関する要望活動について協議され、今年も各市町村あての要望書を作成してゆくことが決定されました。

最後に、今回申込があった井出町、和束町の図書室について、協議会への加盟が承認されました。

新規入会施設名、代表者名は次のとおり

●井出町図書室

(代表者) 井出町教育委員会

教育長 宮本 英男

●和束町体験交流センター図書室
(代表者) 和束町教育委員会

教育長 畑 喜代治

近公図研究集会日程

◇参考事務部門研究集会

テーマ未定

日時 平成六年二月九日(水)

場所 大阪市立中央会館

◇児童奉仕部門研究集会

テーマ

子どもに読書の楽しさを

日時 平成六年二月十日(木)

場所 きのくに志学館内

和歌山県立図書館

京図連研究集会日程

◇研修研究委員会・障害者サービスの向上をめざすために

日時 平成六年二月十七日(木)

場所 枚方市立楠葉図書館

平成六年度研究集会のお知らせ

○全公図研究集会 開催地

整理部門研究集会 長崎県

奉仕部門研究集会 石川県

参考事務部門研究集会 秋田県

児童奉仕部門研究集会 埼玉県

○近公図研究集会 開催地

整理部門研究集会 神戸市

奉仕部門研究集会 大阪府

参考事務部門研究集会 奈良県

○全国図書館大会 鳥取県

日時 平成六年十月二六～二八日

図書館めぐり

京都市左京図書館

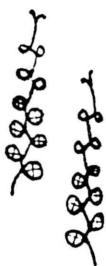
京都市左京区高野、当館の所在地です。比叡山の麓、高野川沿いのこのあたりは、かつて、大江文逸(平安時代の歌人)が『見たせは
高野ののへのうつきはら
みな白妙に咲きにける哉』
と詠じたほどの原野で、平安遷都の節、御狩場とされ、
「高野」も、はじめは「鷹野」と記したと伝えられています。

それから、一二〇〇年、かつての原野は左京区第一の繁華な地区となり、立地条件のよさから、当館の貸出冊数は市内の図書館の中でも屈指の多さとなっています。



当館の開館は昭和五三年六月で、市の図書館の中では比較的歴史があります。ところが面積が約二七〇㎡と狭く、ここに約四万四千冊の本と多くの利用者が出入りするところから、館内はいつもごった返しており、図書館に沈黙思考の空間を求めて来館された方が、あきれて帰られる姿を、複雑な思いで見送ることもしばしばとなっています。とはいえ、地元のミニコミ誌に『庶民的で気軽に利用できる図書館』との好意的な評価をいただいております。地域図書館としての役割——地域に密着すること——は果たせているものと安堵しているところです。

今後とも館の運営に工夫を凝らし、さらに地元で親しまれる図書館を目指してまいります。



亀岡に分館第一号が設置

亀岡市立図書館
大井分館

亀岡市立図書館の分館第一号「大井分館」が、平成五年七月二十日、JR嵯峨野線並河駅前のマンション「メディアス亀岡」の二階に開館しました。隣には「大井生涯学習センター」、近くには大井小学校・大成中学校などがあり、たいへん便利な所に位置しています。

亀岡市では、市民の生涯学習熱が高まりを見せる中、その学習ニーズに応えるため、地域の生涯学習施設の整備を進めています。この分館もその施設の一つとして、また、亀岡市立図書館のネットワーク化を進めるためのモデル施設として整備されました。

この分館の前身は、昭和五十年に大井町コミュニティセンター内に開室した「大井分室」で、蔵書は児童書約三千冊、週一回の貸出しで運営していました。そのセンター移設に伴い、分館へと充実整備されました。規模約九十三㎡、東南二面ガラス張りの明るい

館内に、蔵書約一万冊（内児童書三千冊）を備え、雑誌・新聞などのコーナーも設け、常日開館することができるようになりました。

開館後二ヶ月間で、昨年の大井分室の利用をうわ回り、まずまずの成果を見せています。この利用を維持していくため、将来は蔵書を一万四千冊に増冊する予定です。しかし、小さい分館ですので、今後の利用を伸ばすためには、いかに書架を魅力ある状態で維持できるか、いかに速く正確に参考業務・リクエスト等に応えられるか、図書館サービス本来の姿を問われると思われれます。来年四月にはコンピュータを導入し、本館とのネットワークを図り、利用しやすい図書館をめざし頑張ります。



利用者がつくる

図書館づくりを

綾部市図書館

子供たちが、楽しく充実した夏休みが過せるように……と、七月二十日、綾部市図書館が生れ変わりオープンしました。

新図書館は、旧綾部簡易裁判所を国から購入し、利用しやすく、将来の変化にも対応できるように増・改築し整備されました。

面積は五百七十五平方メートルと広くはありませんが、じゅうたん敷の幼児コーナーやビデオ機器、文字拡大器、対面朗読室、学習室等を設けています。又、書架コーナー南側壁面は全面ガラスで明るく、静かな環境とあいまって、利用者に好評を得ています。

オープン以来、多くの来館者があり、貸出しも昨年の十倍となっています。特に、夏休みの間は、子供たちが開館を待ちわびて飛び込み、思い思いの時間を過したり、お父さんやお母さんに登録や本の借り方を教える姿が見られました。

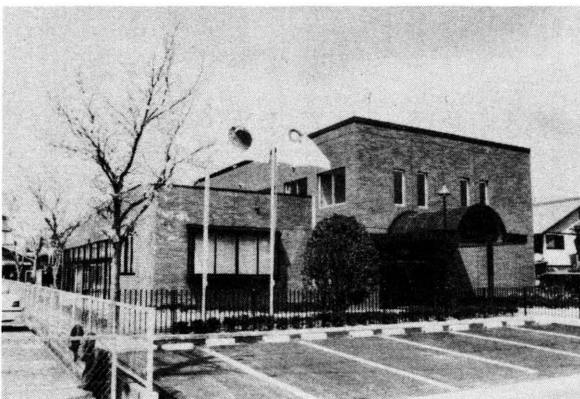
図書館を利用するのは初めてという人も多く、「図書館が新しくなったそうだから……」、と物珍しげに来館された市民も「気軽に本が借りれ、楽しく便利だ」、と図書館ファ

ンが増え、登録者も二千二百人を越えました。

しかし、蔵書数は約三万一千冊と市民一人一冊にも満たず、利用者の多様な要望に十分応えきれないというのが現状です。

このため、予約・リクエストサービスに力を入れ、府立図書館をはじめ他館の御支援をいただき、利用者に喜ばれています。

今後、蔵書、各種資料の増加、充実に努め、利用者がつくる利用者のための図書館として、親しみやすく気軽に利用できる図書館づくりに努力していきたいと考えています。



京図連43回実務研修会

京都府図書館等連絡協議会の第四十三回実務研修会は十一月十八、十九日、舞鶴市西総合会館で開催されました。

研修会のテーマは、日本図書館協会が作成した「公立図書館の任務と目標」とし、日本図書館協会から三苦正勝・枚方市立枚方図書館長、伊藤昭治・茨木市立中央図書館長、岸本岳文・滋賀県立図書館調査課副課長の3人を講師に迎えて、協会との共催で開かれました。

三苦氏は「任務と目標」を作るに至った経過と、その内容について説明し、図書館の役割を考える上で「図書館の自由宣言」が最も基本になり、様々な問題も宣言に照らして考えれば解決策が見えてくる、と強調しました。また、宣言を職員の面から具体化したものとして「図書館員の倫理綱領」を説明しました。

伊藤氏は、神戸市や茨木市の例を交えて、「任務と目標」の一つ一つを実践すること、貸出の重要性は弱まってはいないことなどを強調しました。

岸本氏は、滋賀県の例を中心に、市町村立図書館への援助について講演しました。その中では、「市町村が提供すると判断した本は県立の収

集方針に関わりなく尊重している。

その意味で県立は矛盾を抱えているが、それを誇りに思う」という話が印象に残りました。また、図書館振興策について、滋賀県では、いい市町村立図書館を作ることが周辺市町村に影響を及ぼすとして、高い基準を設けて補助金を出していることが紹介されました。

討議では、様々な質問や意見が出されました。主なものを紹介します。

選書・収集方針で気をつけることや、利用者が本を選ぶときの司書の役割は、

宇治：①人間の尊厳を傷つけるもの（ポルノ等）②外国文献③学習参考書を収集しない図書としており、基準にかかりそうな本の対応に困っている。

伊藤氏：選書する人の条件は①カウンターに出ている人②本を読んでいる人③図書館は何をする所か解っている人だ。選書の方法・視点は前川恒雄氏の言う①読者が何かを発見するもの②具体的で正確なもの③美しい本・爽やかで心が洗われるもの、が参考になる。

学習参考書のように収集方針に明確なら断つてもいい。ポルノの場合、館が一方的に決めつけるのは問題だ。上野千鶴子著『女遊び』を断った館などは見識を疑う。

一定レベル以上の本しか入れない

という館があるが、それで子供が来ているのならいいが、実際は利用が少なくなっている。

住民・行政の意識

伊藤氏：神戸市で館長が「貸出を伸ばさない方策」を出した時に、これに反対しない司書もいたが、こういう問題で専門職かどうかが問われる。茨木では、一つ一つの批判への答を作文し、図書館員が理論武装している。

岸本氏：住民に先進後進の差はなく、あるのは図書館の差だ。滋賀でも住民が変わったのではなく図書館が変わったと言える。

図書館振興：臨界点の計算方法。住民の要求と支持によって予算が拡大された事例。滋賀県の巡回車の実態。他の市町村への貸出依頼は。

「県立図書館は：振興行政の主体とはなりえない」という規定に森崎氏が疑問を出していることについて。

岸本氏：新しい図書館を作る際には、十分に投資をしていい図書館を作ってほしい。中途半端なら止めた方がいい。臨界点として、延面積六〇〇㎡、蔵書三万冊、それを六・七年で更新できる年間三〇〇万円程の図書費はほしい。

図書館振興は滋賀でも行政が担当している。振興施策は一九八一年から十年を経た時点で、これからの図書館の規模を見直し、開館時の補助

金を一〇〇〇万円にして蔵書二万冊以上でオープンできるようにした。

三苦氏：図書館の発展前期には、まず行政が豊かなものを住民に提供することが大切と考えられ、日野市で実践された成果をあげた。現在、図書館間の格差が大きくなっており、「任務と目標」の一つ一つを実践することが大事だ。

図書館振興の為に行政は行政機関が担当し、図書館は図書館行政の結果を分担するものだ。

府立：協力貸出も昭和五六年に六町三六冊だったのが平成四年には九〇九〇冊、今年は一万冊を超えている。予算が延びず参考図書も買えない状態だが、遠慮なく言ってほしい。

広いテーマだったので、十分な議論にならなかったが、各講師の経験から生まれた説得力のある内容がテーマを一層深めたと思われる。

中でも、滋賀県立図書館が「市町村への援助を最大限に重視してとりくみ成果をあげていた」という報告が印象に残り、また府立図書館の協力貸出の飛躍的な増加、府下各図書館の貸出の増加という現状にとどまらず各館の図書館サービスの充実策をふりかえり、その発展へさらなる努力を痛感させられた「一泊研修」でした。

（研修研究委員会まとめ）

実務研参加報告

京都市東山図書館

森脇 祐美

紅葉も終りに近づいた晩秋の西舞鶴において、先日、第43回実務研修会が行われた。久し振りに参加する研修、それも宿泊研修とあって期待と不安の中での参加となった。

研修テーマとして、住民のための選書・貸出制限・府県立図書館の機能などについて次々と講演をされた。まず、公立図書館が住民に何をなすべきかという点で、市民の求める図書を提供すること、児童サービス、全域サービスについて、また、職員

の任務についても話された。次に、図書館サービスにおいてレファレンスが重視され、貸出しが軽視されているのではないか、あくまでも貸出しがサービスの基本であること。選書基準の見直しでは、質へのこだわりから利用者の要求とのギャップが生じているのではないかを論じられた。続いて、都道府県立図書館は市町村立図書館を補佐し、要求に応えなくてはならないこと、資料を豊富に揃えること、またそれをどう残してゆくかが重要だということであった。質疑応答では、リクエストの制限や住民参加の問題が出されるなど

活発なものとなった。講演の中で選書について質へのこだわりから利用者が読みたい図書が館から消えていくことはあってはならない、一度も読まない図書があることはいけな

いと論じられ、私も共鳴させられた。図書の内容の良否を競うよりも、どんな図書がどのように読まれているか、利用者の嗜好を知らなければ「まちの図書館」として意味がなくなるのではないだろうか？ 図書館が変わり、図書館員が変わらなければ利用者の図書館に対するイメージも変わらないということを強調された。懇親会においても、日頃の疑問や自館の現状等を話し合うなど充実した時間を共にできたようだ。

地域に根ざした身近な図書館でなければと思いつつ、図書の貸出しだけでなくコミュニケーションの場として地域の人々に喜ばれるよう努力しなければならぬ。そのためには、私たち職員一人一人が自覚を持ち、行動し切り拓いていくことが必要であらう。と、いつもと違い、柄にもなく少し考えつつ、帰路を急ぐ車中、今度は「駅弁」のおいしいのはどれかなあと悩んでしまうという、いつもの私であった。



長岡京市立図書館
法貴 隆司

一九九三年十一月十八・十九日に第四三回実務研修が、茨木市立中央図書館長の伊藤昭治氏、枚方市立枚方図書館長の三苦正勝氏、滋賀県立図書館調査課副課長の岸本岳文氏の三人に講師として来ていただき、日本図書館協会と京都府図書館等連絡協議会の共催で行われた。

研修会は日本図書館協会発行の『公立図書館の任務と目標』を中心にすすめられた。

一日目の最初に三苦氏から、日本図書館協会に政策委員会が発足した経緯から（三氏とも政策委員）討議

の内容、公立図書館がするべき仕事である貸出、予約サービス、レファレンス等々について理論的なことを話していただいた。また、委託のことに付いて、委託は名目上の人件費が削減されるに過ぎず、委託の理由としてよくあげられる経費節減にはならないこと。委託すると議会のチェックが掛からなくなるため、責任の所在がいまいになり住民の意思が届かなくなることなどを話された。

次に伊藤氏が、「今だに図書館は学生の勉強するところという図書館に対する認識が根強く残っている」「予約サービスは一部の人に対する

過剰サービスだという論がよく出てくる」「仕事にすぐ役立つ新しい情報を外部データベースなどを使って提供することが今後必要になる」など、現場に即した問題点を挙げられ、図書館サービスを後退させるような動きに対して、きちんと対処するためには、よく研究し理論武装しなければならぬことを強調された。

最後に岸本氏が県立図書館のことを滋賀県立図書館の具体例を挙げながら「県立図書館の最も重要な役割は市町村立図書館の援助にあること」「児童書の全点購入をする子どもを取り巻く出版状況がよくわかること」「連絡車の意義」などを話された。

二日目は前日の話についての質問や、各館の予約についての悩みや、ボランティアと図書館の関わり、選書についての質問、図書館現場とまわりの職員の図書館観の差をどのようにに克服していけばよいかなどが、参加者から出され、講師がそれに答える形で研修を深めた。経験豊富な講師の熱のこもった話しを聞くことができた、有意義な二日間であった。



ブックリスト作り

田辺町立中央図書館

釘本 容子

いつも夏休みになると、片手にプリントを握りしめ、せっばつまった顔して、「この本ありますか。」と尋ねてくる子たちがいっぱいいるんですよ。

プリントの内容はと言うと課題図書と名作がずらり。毎年この繰り返しです。

そこで私たち図書室の二人は、今年夏休み向けに『こんな本もあるんだよ』って感じでブックリストを作ろうとなったわけです。九十二年から現時点までに出版された本百冊紹介するという目標をたて、いざ仕事にとりかかったのですが……日頃の勉強不足で、読んだ本が少ししかないということに気づいてしまいました。そこで私たちは昼休みも家に帰ってからも、ひたすら本を読むという日々が続きました。

そして内容を百字ぐらいにまとめだしたのですが……百字なんてほんの少しなんですよね。とにかく難しい。五十冊目ぐらいで二人ともいきづまって「私にはもう書けない……」っていう状態になったのです。

しかし、ここで投げだすわけにもいきません。

そしてなんとか、かんとか百冊達成に至ったのです。ここまでできたに打ちこんで校正して、印刷製本と、まだまだ道のりは遠かったのです。こんなに苦勞して作ったブックリストの反応はといえば、リクエストカードをいっぱい書いてくれた子もいたし、全く見向きもせずって子もいたし、まあ、その子たちにとったら学校のプリントも私の作ったブックリストもいっしょなんですよね。と思いますながらも、『第二弾も作ってしまおう』と考えています。

専門委員会ニュース

〔研修研究委員会〕

京都府下図書館に於ける障害者サービス実態調査アンケートの中間報告
障害者サービス・グループは、

「京都府下図書館に於ける障害者サービスの実態調査」アンケートを、十月十五日(金)で最終締切を行い、集約を始めました。調査用紙は、加盟館四三館に発送し、四〇館から回答を得ました。回収率は、九三・〇％。

調査内容は、「障害者数の把握及び登録状況」「宅配サービス」「対面朗読サービス」「点字図書・録音図書等の貸出及び所蔵状況」「相互

貸借の状況」「障害者サービス担当職員の状況」「施設・設備の状況」「障害者サービスに於ける課題・問題点」「障害者サービス機器類の設置状況」等に付いて調査しました。障害者の把握は中央館で行われている傾向が出ていますが、登録率は〇・四四％と低調です。前記各サービスの実施状況は一七・五％から三〇％となっています。担当職員がいないと回答された館は七〇％。無回答も含めると八二・五％となります。今後の障害者サービスを考える上でも課題となる数値でしょう。(文責江尻)

〔相互協力委員会〕

相互協力の実態を、府立図書館連絡協力車業務の統計から昨年度と比較してみました。

九月末までの状況は、市町村図書館等読書施設間については、搬入五百十五冊(昨年同月三百七十九冊)搬出五百三十四冊(昨年同月四百十九冊)となっています。

また、府立からの協力貸出は、五千九百六十一冊(昨年同月四千四百六十一冊)と、いずれも大幅にのびています。

利用者が求める資料を提供しているうえで、相互協力は欠かせないものですが、京図連のこの制度が定着し大いに生かされていることがうか

がわかります。

現在、雑誌・新聞総合目録の改訂作業を進めています。十二月十五日(水)に相互協力委員会を開催し、最終校正を行います。

年度内発刊を目指していますので、いま少しお待ちください。

〔広報委員会〕

今回は、京図連四十三回実務研を特集といたしました。実務研終了後ご多忙の中、わずかな日数で原稿を間にあわせて頂き、委員長さんを始め執筆の方々に大へんご迷惑をおかけいたしましたことを、お詫び申し上げます。

おかげ様で加盟館の皆様方のご協力によって三十二号をお届けすることができました。厚くお礼申し上げます。尚、今後共ご支援のほどよろしくお願いいたします。

〔委員の異動〕

広報委員 新 中川 幸夫
(京都市東山図書館)
旧 徳 平 勝
(京都市伏見中央図書館)

〃訂正とお詫び〃

前号の中で、八幡市立男山市民図書館の規模が約4㎡とありましたが約千㎡の誤りです。

訂正してお詫び申し上げます。